

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373000530
法人名	医療法人 新清会
事業所名	グループホーム あしきた
訪問調査日	平成 20 年 12 月 8 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	4373000530
法人名	医療法人 新清会
事業所名	グループホーム あしきた
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字西割北2015-6 (電話) 0966-82-2370

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年12月8日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 0 人

(2) 建物概要

建物構造	木造・鉄筋	造り
	2階建ての	1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.7歳	最低	76歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水俣病院・篠原医院・井上歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

芦北の中心地にあるホームは役場や警察署・消防署等が隣接し、既存の建物を改装したホームとなっており、2階は看護学生の寮である。ホーム内はバリアフリーが徹底し、居室を和室から洋室に一部リフォームする等常に入居者個々の状態変化を観察し改善が図られている。ホームの運営状況の透明性を図り、家族とともに変革を推奨しており、“あしきた通信”を地域に回覧し啓発の一環としたり、運営推進会議を機転として地域の中での生活が拡充されている。今年度は管理者が交替しているが、新体制のもと全職員が新管理者を盛り立て、“やさしい介護”に徹しており、入居者の主体的な生活や穏やかな生活となって表出されている。法人全体で高齢者福祉に取り組み地域福祉の一旦を担っており、ホームでの取組みが更に地域の認知症ケアの増進となることが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の改善課題を全員で検討し、地域密着型としての姿勢を運営方針の中に具現化して表し、運営推進会議録を全家族へ送付し協力体制の強化を図ったり、看取りに関する指針を整備し訪問看護を採り入れるなどホーム運営に具体的に反映させている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を1年間の集大成として、また職員のステップアップの機会と捉え、今回の自己評価も全員で取組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月毎と定着した運営推進会議は、入居者の状況報告・活動報告、職員の交代等が報告され、委員との意見交換が行われている。家族は代表者の参加となっていたため、今年度より議事録を全家族へ送付し周知徹底を図っている。参加委員も地域の行事を発信し、ホーム運営に積極的に関わっておられることが議事録により窺われ、委員の意見等をサービス改善に生かし、ケアに反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に状況を報告したり、毎月“あしきた通信”の中に行事予定等を記載し、家族への周知を図っている。家族の訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え、玄関に意見箱を設置しているが意見箱には意見や苦情は寄せられていない。イベントと組合せた家族会はほとんどの家族が参加され、問題提議の場として、また、入居者・家族・職員等の楽しみ事となる等工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月“あしきた通信”を地域に回覧し啓発に努め、運営推進会議時に委員から行事をリサーチし地域活動に参加している。法人主催の行事や通院時等の交流、地域の文化祭に入居者の作品を出品し見学したり、中学生の職場体験や高校生の福祉体験実習等を受入れや近所の方々やボランティアの訪問もあり、地域の中での生活拡充が図られている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の3項目をもとに、地域との連携や協力又交流に努めることを掲げている。地域密着型として、全職員で地域との相互交流等の姿勢やケア方針を具現化した規程を新たに作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示と毎朝の唱和により意識付けを行い、全職員で毎月目標を掲げ、その実現に真摯に取り組んでいる。管理者は考えたケアの実践に取り組むたいと問題発生時には全員で話し合い、法人でも活性化委員会を作り、各部署がレベルアップに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月“あしきた通信”を地域に回覧し啓発に努め、運営推進会議時に委員から行事をリサーチし地域活動に参加している。法人主催の行事や通院時等の交流、地域の文化祭に入居者の作品を出品し見学したり、中学生の職場体験や高校生の福祉体験実習等を受入れや近所の方々やボランティアの訪問もあり、地域の中での生活は充実している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を1年間の集大成として、また職員のステップアップの機会と捉え、昨年度の改善課題を全員で検討し具体的な改善を図っている。地域密着型としての姿勢を運営方針の中に具現化して表し、運営推進会議録を全家族へ送付し協力体制の強化を図ったり、看取りに関する指針を整備し訪問看護を採り入れるなどホーム運営に具体的に反映させている。今回の自己評価も全員で取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎と定着した運営推進会議は行政・民生委員・区長・家族代表と法人事務局からの参加により、入居者の状況報告・活動報告、職員の交代等が報告され、委員との意見交換が行われている。家族は代表者の参加となっていたため、今年度より議事録を全家族へ送付し周知徹底を図っている。参加委員も地域の行事を発信し、ホーム運営に積極的に関わっておられることが議事録により窺われ、委員の意見等をサービス改善に生かし、ケアに反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場が隣接しており、運営推進会議の出席の他ホームから情報を発信したり、認定調査時の情報交換等や社協が行っている“あそびりテーション”等に参加しサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に状況を報告したり、毎月“あきた通信”の中に行事予定等を記載し、家族への周知を図っている。家族の訪問時の近況報告や入居者の生活ぶりを写真で掲示したり、各居室にアルバムを置き写真を見てもらい家族と職員のコミュニケーションを密に図っている。金銭管理は個別管理と金銭管理帳を作成しサインによる確認としている。職員の交代は運営推進会議の中での報告や産休に入る職員については早めに“芦北通信”に載せている。また、受診後や特変時に随時電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見や要望を聞く機会と捉えている。玄関に意見箱を設置しているが意見箱には意見や苦情は寄せられていない。イベントと組合せた家族会ではほとんどの家族が参加され、問題提議の場として、また、入居者・家族・職員等の楽しみ事となる等工夫している。	○	意見箱には苦情等寄せられない状況ということであり、外部評価のアンケートを活用したり、家族会にはほとんどの家族が参加されており、家族会でアンケートを行う等更なる工夫に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は馴染みの職員によるケアの重要性を認識し全職員を常勤としているが、今年度は管理者の定年により交代がおこなわれている。新管理者は同じホームから、又旧管理者も継続して同ホームで勤務しており、スムーズな交代により入居者のダメージも無く、新管理者を全職員が盛り立てていることが訪問時に垣間見ることができた。産休や育児休暇等の福利厚生が構築しており、産休に入る職員もおり、パート職員の導入を早めに決めたり、退職後の継続した勤務や育児休暇後等継続して働くことができる等離職防止に取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人では教育委員会が年間計画をたて勉強会を開催し、外部研修には全職員が参加できるようローテーションを組み、全員がレベルアップに努めている。ホーム内では復講による情報の共有化や資格所得に向け実技訓練を行っている。また、毎月系列法人で行っている“聞いて得する話”には職員とともに入居者も参加されている。“研修で得た知識を現場で活かそう”が研修委員会の目標である。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会のブロック会議に参加し、情報交換や交流の機会を通じネットワークを作り、質の向上に取り組んでいる。今年度は近隣のグループホームと交換研修が行われており、毎年継続する意向である。</p>		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>この1年に2名の入居者の入れ替わりがあり、デイサービスを利用され自宅での生活からの環境変化にまず本人とデイサービスの職員とともに訪問してもらい、とまどいや不安が生じないよう家族との連携を密にしながら対応している。入居前から本人の生活環境や家族の意向等情報を収集し、職員との信頼関係を築くよう寄り添いのケアや傾聴に努めている。入居後も利用料金を家族に持参してもらったり、衣替えを家族と一緒にいる等家族の協力を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する立場に立たず、できることには手を出さず、“心と心で”をモットーにお互い感謝の言葉を掛け合いながら穏やかな生活が送られている。昔からの風習や習慣等を教えてもらう場面を作ったり、時には体験談を聞いたりと良き仲間として支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで得た情報の他、入居者の言動や表情、しぐさ等から察知し、個々の思いの実現に向け担当職員の情報を共有し、本人本位となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用し、基本情報や担当職員の気づき・観察の結果をもとに毎月運営会議の中でカンファレンスを開催している。家族にも基本情報の一部を記載してもらい、担当職員がプランを出しており、職員の意見が反映されたプランとなっている。		
16	37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回の定期的な見直しの他、ホーム職員による定例ケア会議や医師・法人事務長・管理者や今年度から訪問看護職員による担当者会議を毎月開催し、家族の意向や介護への思いを取り入れ、入居者の心身の状況に応じ見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>買物や受診への同行等柔軟に対応している。また、医療との連携や日々の健康管理により入院の回避・早期発見に努め、今年度よりショートステイの受入れや福祉体験学習を受け入れている。ボランティアの受入れや入居者の希望に応じふるさと訪問等支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体医院がかかりつけ医として日常的な受診や24時間緊急時体制が構築している。医師でもある理事長が頻繁に訪問され、職員からの報告と入居者の状況把握に努められている。また、今年から家族の同意を得て週3日訪問看護を採用している。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に家族の意向を聞き、状態変化に家族と相談している。母体が医院であることや併設に老健施設があり、医療行為が必要な場合には入院措置や移転も可能である。今年度医療連携体制加算についての家族にアンケートを行い、入居者・家族と話し合いホームで看取りまで生活を継続するか否かや意思確認方法等指針を整備している。週3回の訪問看護も採り入れており、今後更に家族の意思変更も予想し話し合いを重ねる意向である。</p>	○	<p>家族の関係が密に図られ家族の訪問も多いホームであり、今後も家族や医師・訪問看護・職員等が話し合いを重ね、具体的な状況に備えていただきたい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	耳元での声かけや自然な方言での会話、入室時のノック、移動介助等尊敬の念を持って優しく対応している。個人情報保護については、接遇委員会での研修による徹底と誓約書を取り、中高校生の実習生からも守秘義務の同意書を受入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活歴や体調に合わせ、個々のペースを乱さないよう支援している。和室で職員と一緒に過ごさせる入居者や自分の居室でラジオに耽る入居者、居室で入居者同士が話しに興じられている姿等自由に生活されており、職員は各部屋に声かけをし、所在確認を徹底している。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできることに配慮し、座ってできること(食材の皮むきやもやしの根きり等)を中心に一緒に調理に取組み、箸を配ったり、配膳・下膳等が行われている。ホームの畑で収穫した野菜も食卓に上っており、一日・十五日にはお神酒を出したり、誕生日やひな祭り等行事食も楽しみとなっている。今のところ介助が必要な入居者は1名であり、介助をしたり、食の進み具合を見守り、ゆっくりとした食事となっている。職員の昼食時間は入居者の終了後となっており、この時間を職員の話合いの場としている。	○	毎食時見守りの徹底や声かけにより楽しい食事を支援し、毎月季節行事や誕生会等は入居者と職員と一緒に楽しい食事をしている。職員の食事時間の有効活用や見守り・介助の徹底は大いに評価できるが、更に日頃から食事を一緒にとられる事を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックにより入浴可否を見極め、個々に声かけをし午後からの支援となっている。特に夏場は毎日入浴されていることが記録より確認できた。入居者同士も声かけ合いながら入浴されており、入浴拒否回避となっている。また、昼食を兼ねた町内の温泉利用は楽しみごとの一つでもある。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の草取りや洗濯物干し・たたみ、仏壇の花の水かえ等日常生活に関わってもらい、カラオケで歌ったり、リハビリ体操により身体機能低下防止に努め、新聞の読み聞かせ等が行われている。又、居室でラジオを聴いたり、新聞や雑誌を読まれる入居者や地域の文化祭に入居者の作品の出品等入居者の自信回復や生活歴を生かした支援が行われている。季節毎の行事や町外へのショッピング等も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調により散歩に出かけたり、買い物がてらにドライブに出かけている。季節に応じた外出の機会も多く、ふるさと訪問も家族の協力により行われており、今後も継続していく意向である。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけないケアの意義を理解し、入居者の言動や行動をさりげなく見守り、所在確認の徹底により居室や玄関等開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練が実施され、今回は入居者や区長や面会に訪問された家族も参加されている。夜勤帯の火元確認の徹底や煙探知機・緊急通報システムを設置し、連絡体制も整っている。今年度は消防の立入検査が行われ、職員は甲種防火管理者講習に参加したり、法人内で火災の初期消火対応として“火事だ！その時あなたは”という研修が行われている。	○	運営推進会議の中で、今回訓練に参加した委員から、「近所の人々を含めてもってはどうか。」との意見も上がっているということである。夜間を想定した訓練や地域を取り込んだ訓練を計画していく意向であり、今後も更に地域と連携した取組みが期待できる。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量の記録を体重やバイタルチェック(野線化)とともに記録し、栄養管理に活かしている。水分摂取量は水分不足や熱発生時等個々の状態に応じ記録し、訪問看護と連携し水分補給方法を考え、ジュースを寒天にして支援したり、好きな飲み物を多様に用意している。一食30品目を目安した献立や個々の嚥下状態や義歯の状態、体調により粥やキザミ食等細やかな支援となっている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関内にクリスマスツリーや雪だるまが飾られ、地域住民や家族の協力、職員の特技が活かされ季節感を醸し出している。室内はバリアフリーが徹底し、採光も良く掃除が行届き、和室に仏壇やマッサージチェア・炬燵等を設置し、入居者の皆さんがゆっくりと過ごされている。職員や中学生が描いた似顔絵で各居室を明示し、事務所前にも中学生が描いた似顔絵で職員を紹介している。騒音や異臭も無く、居心地良く過ごす工夫が随所に見られる。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和室と洋式の居室となっているが、入居者の身体機能低下に応じ、昨年和室2部屋を洋室へとリフォームしている。各居室には生け花の日に自分で活けた花や作品を飾ったり、家族写真等を自由に掲示している。職員は毎月入居者と相談しながら居室の環境整備に取り組んでおり、ベッド等の配置も個々が使いやすいようにレイアウトしている。家族の思いも十分に伝わる居室である。</p>		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあしきた
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県葦北郡芦北町芦北2015-6
記入者名 (管理者)	上谷 清美
記入日	平成 20 年 10 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念、人間としての尊厳の尊重・個性の尊重・主体性の尊重を元に自発的な活動及び協力を行う等の地域との交流に努めています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時壁に貼ってある理念を各人読んでいる。職員に意識付けを行っている。利用者様のかかわりも理念の実践に向けて取り組んでいます。	○	常に理念に添って介護が出来るよう取り組んでいきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月広報たよりを渡し利用者様の生活ぶりや考えておられる事を家族に伝えている。その他面会時にも家族の方に伝えている。	○	新しいボランティアの受け入れを行っていききたい。家族の方にも行事等に参加してもらえるよう取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者及び職員は近隣の方への挨拶には常に心がけている	○	ホーム近隣からの利用者様が多い為近所の方々も気軽に訪問されています。その方々にホームの事を分かって頂き他の知人の方も来られるよう話等している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	通院や法人主催の行事へ参加し地域との交流を深めています。町主催の文化祭へ利用者様の作品を出品したり、それを見に行ったりと交流に努めています。	○	運営推進会議時区長、民生委員さんに尋ねたりしながら地域の活動に参加出来るよう常に心がけている。地域で三味線をされるボランティアの方が月1回来られています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者様の相談には気軽に応じられるように職員は常に状況を把握しながら役立つ事はないか話合っています。	○	家族の方ばかりでなく地域の高齢者の方が相談に来られるよう取り組んでいきたい。その他職員の知人の相談も受けている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	業務におわれているが、職員皆で自己評価、外部評価を実施し理解する事で改善に取り組んでいます。	○	評価を活かすよう皆で話あっていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の近況報告、他の委員からの意見を伺ってサービス向上につなげている。地域行事へも参加している	○	区長、民生委員さんより地区の行事を教えられる為今後も参加してサービス向上につなげていきたい 推進会議の議事録を全家族へ配布している
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者福祉課介護保険係等に気軽に尋ねに行ったりして常に質の向上に取り組んでいる。 町主催の研修会には、必ず参加しサービスの向上に活かしている	○	町役場が隣接している為常に情報提供を行い、認知症ケアを一緒に推進している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会等にも参加し必要な人には活用出来るよう支援している。	○	今現在対象者はいない
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会にも必ず参加し、虐待がないように注意し防止に努めています。職員全員が意識を持って努めています。	○	社会福祉協議会主催の虐待防止の研修会等に必ず参加している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	利用者様の家族の心配事や不安、疑問点を常に尋ね説明を行い理解、納得を図っていききたい
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	苦情は現在ない 利用者様のチョットした反応にも常に気をつけていきたい
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	あしきた通信により日常生活や行事予定を知らせている。ホームは家族の訪問が多い為訪問時に近況報告を行なっています。金銭出納帳を個別に作り、捺印してもらい確実性を図っています。 玄関横に掲示した写真と個人に作っているアルバムも個々にあわせ家族への報告です。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	玄関にご意見箱設置しています。面会時家族とのコミュニケーションに心がけ、意見や要望を聞くようにしている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	職員同士で業務検討会を行い意見等出し合い、まとめそれを先生、事務長を交えた運営会議の席で意見や提案をだし運営に反映させています。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	職員全員で話し合い業務に合わせて調整している
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		運営者は全職員を常勤している。産休産後等福利厚生が確立しており、継続して働く事が出来る事で離職防止になっています。 管理者交代に伴い利用者様への不安がないよう管理者、職員配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会、町主催の研修やリーダー研修等全職員が参加出来るような体制を作っている。 資格取得に向けて職員頑張っています。	○ 熊本県及び芦北町の研修会等必ず参加出来るようにしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの城南地区ブロック会議に参加し情報交換に努めています。同法人同士の交流や近隣のグループホームとも交流して質の向上に努めています。	○ グループホーム同士で交換研修をおこなう事が出来て大変良かった。毎年続けていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士話し合いを良くとっている。 運営者は、私達の相談にのってくれ仕事を任せてくれる。	○ 一人で悩まずに何でも相談出来るよう職員で力を合わせている
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の意見がとおる為各自が向上心を持って働く事が出来る。	○ 常に職員は資格取得等の目標に向かって取り組んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様にはそれぞれ担当の職員がいる為担当で色々な事を尋ねたりして常にコミュニケーションをとっています。担当が困った時には職員で話合っ受けて止める努力をしています。	○ 利用者様が話しかけやすいように職員が近くにいるようにしている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問時には利用者様の事を話し、そして家族の方に心配等はないか聴くような機会を作っている。	○ 家族の面会時には必ず話しかけをするように職員勤めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの相談があったときには職員で話しあいながら対応している。ホームでは対応出来ない場合は法人の支援相談員等に相談している。	○	必ず利用者様の支援を見極め体応していきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所されて暫くは面会の頻度を多くしてもらえるよう家族の方に協力をお願いしている。徐々に慣れられるよう職員も優しく見守り支援している。	○	馴染みの品等があれば持って来てもらうように心がけている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	押し付けの介護をするのではなく、利用者様が出来る所はしていただき出来ない部分を助けるこのことを大切にしています。心と心で利用者様との関係を築いています。	○	昔の行事の話を聞いたり、おはぎ作りや饅頭作りの時には尋ねたり一緒に作っていく事を続けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何でもご家族様に尋ねたり、お話を伺うことによって利用者様を支えていく関係を築いています。	○	面会時には、どんなささいな事でも職員から色々と話かけるようにしています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式に書いてある家族と利用者様の関係を理解し職員は支援している。分からない事は家族に尋ねたり、話すように努めそれぞれの関係を理解し対応している。	○	行事の参加等ご家族様に声かけしお願いしている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を多くお願いしている。利用者様の居室でゆっくり話し等が出来るように支援しています。	○	利用者様への面会は多い。 知人の方がもっと来られるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が利用者様全員にいつも声かけしている事によって、一人で寂しく過ごされる事はない。居室におられる時にも必ず職員が誘いかけている。	○	利用者様の側には職員が必ずいて、利用者様同士が係わり合い支えあうよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設外でお会いしたら必ずこちらから挨拶する様職員にも指導している	○	気軽にホームに来られるような関係を断ち切らないつきあいを大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を決めている為利用者様からの希望や意向を担当職員の意見をもとに聴く事ができ情報の共有化に努め、利用者本位のケアに反映させています。	○	担当制はこのまま継続して利用者様本位となるようなケアを続けていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの話しや前施設からの看護サマリー等にて経過の把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康状態については常に全職員が把握するように努めている	○	職員同士毎日利用者様の事についてチョットの時間を利用して話し合いをしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様、ご家族様等に要望を尋ねそしてカンファレンスを開催し介護計画を立てている。 センター方式を採用し担当により記入されている為職員の意見が反映されたプランが出来ています。	○	利用者様について必ず担当職員が介護プランを出すようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新時期、半年の定期的な見直しには必ず担当者会議を開催し家族の意向や担当者の思いを取り入れた、利用者様の状況及びその現状に即して見直しをおこなっています。	○	本人の状態は職員が常に把握している状態が変化するとすぐ対応していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子、介護の実践、結果、気づき等職員が情報を共有しながら毎日の介護の見直しに努めている。	○	職員一人一人が常に報連相をきがけていて情報を共有している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、受診への同行をしています。遠出の時には併施設設より専属の運転手の方が大型車で送迎をされ応援してもらっています。母体が医院の為医療との連携により受診、入院、病気の早期発見に取り組んでいます。	○	リーダー研修を受講。ショートステイ受け入れも可能となり現在実施している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を定期的に行なったり、ボランティア等も受け入れている。毎年一回行っている避難誘導訓練には、消防署及びQネットから参加してもらっている。	○	福祉体験学習の学生の受け入れもおこなっている
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅事業所等のケアマネジャーと密に連絡を取り合っている。法人のケアマネジャーとも相談している	○	ケアマネジャー同士常に沢山の情報を知っておきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとも連絡し協働している	○	連絡は常に取り合っていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院がかかりつけである。その為日常的な受診や緊急時対応夜間の往診等適切に医療が支援されています。ホームには医師である理事長が毎日訪問される為職員は利用者様の状態をすぐ報告する事ができる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>医院の方に師長が配置されますます利用者様の健康管理を支援できる。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>師長とも今以上に連絡を取り合っていきたい</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化していくなかでご家族の意見を伺いながら終末期に向けた方針を職員同士で具体的な対応を協議していくことになる</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	言葉の暴力には常に気をつけていきたい
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	居室で利用者が出来る物を何か考えていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	職員の知り合いの美容師がボランティアで来られている。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	一日のお神酒、誕生会の時のお祝いのお酒等ホームで作った梅酒を差し上げている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々のケアプランに添って排泄の支援しています。	○	排便のコントロールをしている方もおられる為毎日チェックしている。常に状態把握して毎日対応検討している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を行っている。利用者様の希望に応じて対応している。時には町内にある温泉施設に出かけています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の希望に応じて対応しています。体調等で居室でゆっくり休まれるような事もあります。その時々状況に応じて支援しています。	○	夏は涼しく、冬は暖かく安眠できるように居室の温度等気をつけている。敷きシーツ家族より季節に合う物を持って来てもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の手伝いをされる方がおられ畑の周りの草取り等職員と一緒にされます。他にも食事の準備を手伝われる利用者様もおられます。居室で楽しみたい方は、新聞を読んだり雑誌を読んだりしておられます。それぞれ利用者様に応じた支援をしています。利用者様全員の楽しみごとの支援としては季節ごとの行事を必ず行っていま	○	町内、町外への気分転換のショッピングを続けていきたい 自宅への故里訪問も時々取り入れていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きなお金は手元には持っておられないが、小銭を持っておられる利用者様もおられる。ショッピングに行かれた時には自分で使えるよう職員が支援している。	○	個人の出納帳には必ず家族より確認してもらおうよう徹底していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は病院へ受診。天気が良く気持ちの良い日には職員と一緒に散歩に出かけます。季節に応じて計画的に外出の機会を多くする事もあります。	○	天気の良い日にはホームの近くをゆっくり散歩出来るよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様からの希望や話を聞きご家族と相談して出かける機会を作っています。	○	故里訪問これからも続けていきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望の応じて電話は自由にかけてもらっています。ご家族からの電話の取次ぎも自由に出来ます。手紙は特に出されません。年賀状を出されますので支援しています。	○	絵手紙に出来れば取り組みをしていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームは常に開放していて、いつでも面会出来るようにしている。居心地よく過ごしてもらえるように利用者様の居室に飲み物等をお出しするなどして長く顔馴染の方がおられるように工夫しています。	○	職員皆でお出迎えと帰りの挨拶に心がけていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の中には夜間帯危険な行動をされる方がおられる為家族の方に話し同意の元サークルの設置をしています。身体拘束はありません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が認識しています。居室の戸は開放され、サッシはすべて鍵はかかっています。常に利用者様の側に寄り添い状況に応じて支援し、施錠のないケアをしています。	○	常に利用者様の側において細やかな気配りをしています
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	落ち着かれず歩き回られる利用者様や、帰宅願望のある利用者様等の様子、所在確認は必ず行っています。	○	職員が必ず1名は側において対応出来るようにしている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様個人で危険物も違います。それぞれの状態に応じた取り組みをしています。	○	認知症の状況によって利用者様を把握しています。職員は目配り気配りをしています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルや事故防止マニュアル等作成し対応している。誤燕に対しては食事中的の見守りに努めています。火災については、避難訓練を常に実施しています。	○	法人の研修会や町の研修会には職員参加し知識を学んでいる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員も研修会には参加し、応急手当や初期対応の訓練を実施しています。	○	職員は研修会には必ず出席して実技等を行い自分の知識を高めている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと避難訓練を実施しています。通報、消火器の使い方、避難等利用者様、職員、民生委員さん参加にて行っています面会に来ておられた家族の方も避難、誘導に参加されました。	○	消防署からの指摘事項今度の避難訓練時には訂正出来るようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ホームに入所される時に家族の方とは話し合いをしています。状況に応じて面会時にも話をしたりしています。	○	ケアプランの見直しや更新の時にも対策等話し合っています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝健康チェック、バイタル測定を行い職員同士情報を共有している申し送り時にも利用者様の状態報告を行っている。急変時にはDrへ報告し指示を仰いでいます。	○	不眠の利用者様は常に状態観察を行う顔色、話し方、皮膚の状態等に気をつけながら体調の変化や異変の発見に努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は必ず確認し服薬の支援を行っています。職員は理解して服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。	○	Drと密に相談を取っている 医院の看護師にも相談し協力していきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表をチェックし個々に応じて排便コントロールを行っている。下剤服用者もおられるが、食事を中心にしながら繊維物を多く取り入れるように工夫したり、体操等も行っている	○	繊維質の多い食材を使うようにしています。水分摂取量に気をつけて少ない利用者様には、声かけしながら食事中に摂ってもらう
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様一人一人に応じた口腔ケアを支援している。臭いがある利用者様には市販の歯周病用のうがい薬を使用している夕食後は義歯洗浄剤に利用者様の義歯浸けている	○	自力で出来る方には声かけしての見守りを行い、介助が必要な方には職員がそれぞれの利用者様にあった対応をしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い把握している。夜間帯において水分摂取を希望される方にはそれぞれに合ったペットボトルを設置しています。好き嫌いの多い利用者様には、代替食を提供しています。水分量が少ない利用者様には好きな飲み物を提供しています。義歯の状態、体調の変化に応じて粥食や副食がきざみになったり、野菜類の茹でか	○ 水分を沢山取れない方もおられる為本人の好きな飲み物を選択してもらい水分を補っている。 食事を沢山食べられるように職員が常に声かけしている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを医院の方で作成、それを土台にホームにあった対応をしている。	○ 職員は常に法人の研修会や町主催の研修会に参加し勉強している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物をして、残らないように食事を作っている。衛生管理には十分気をつけて調理前後の手洗いは特に気をつけている。調理用具は乾燥機で乾燥し、台所や冷蔵庫は常に整理整頓に心がけている。	○ 今後も職員の手洗い、うがいの徹底を図る
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの表札の設置。スロープの設置。玄関周囲プランターを置き季節の花を植えています。	○ 玄関の靴箱の上には観葉植物を置き、面会簿の横には法人の発行している新聞を設置し、取って読めるようにしている。 利用者様の写真やホームの新聞も飾っている。暖かい感じをだしていきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事の花を飾ったり、利用者様が作られた作品を廊下等に飾ったりしています。居室の入り口には職員手書きの似顔絵や福祉体験の時中学生が書いた似顔絵もあります。事務所の入り口にも中学生が書いてくれた職員の似顔絵もあります。夏場は居室の日差しよけにすだれ、よしずを設置し暑さ防止と涼しさを感じるような居心地よい工夫をしています。居間にはマッサージチェアを置き利用者様の希望に応じて	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室の為利用者様はゆっくりと過ごす事が出来、広間にはソファが設置してあり思い思いに過ごしておられます。時々廊下を歩いておられ近くの居室に入っておられ話込んでおられる事もあります。	○ 居室でゆっくり過ごせるように個人のアルバムを設置している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様が持って来られた物等で毎月居室を利用者様と相談しながら環境整えています。衣替えの時も家族の方が衣類をチェックしながらされます。	○	寝具等使っておられた物を家族に持参してもらっている。利用者様の制作した物を居室壁に飾っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室に換気扇はないが、常に居室のサッシを開け空気を入れ替えをしている。温度調節は、利用者様一人一人に応じて配慮しています	○	換気は必ず行っている。その他各居室に消臭スプレーを設置し利用者様の居室がいつも清々しく過ごせるようにしています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり廊下にも手すりが設置してある。ベットの高さもそれぞれに調節している。トイレにも長い手すりを設置している為利用者様はそれに捕まり使用しておられる。	○	脱衣所にも手すりを設置し立ち上がりが楽になっている
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家事手伝いは利用者様も昔経験されていてわかりやすい為、洗濯物干しや洗濯たたみを手伝われます。食事の準備も穀類の皮むきやもやしの根取り等進んで手伝われるよう簡単な家事をお願いしています。	○	手先を動かす事が好きな利用者様には広告用紙でゴミ箱作りやトイレのゴミ袋作りをされています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑周りの草取りの手伝いをされたり、プランターへの花の植え替えを楽しんで参加されています。手伝いが困難な利用者様はベランダから見学され楽しまれている。	○	畑の野菜の収穫を手伝ってもらいたい 花の水やりを手伝ってもらいたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは居間や各居室に陽が降り注ぎ明るく。バリアフリーで出来ています。各居室には利用者様が作られた作品を飾っています。共用部分や居室には季節感ある飾り物や花等で彩りをだしています。

畑がある為野菜作りや中庭の草取りを利用者様と職員が一緒に行っています。収穫した野菜は利用者様の食卓へ出しています。旬の味覚や収穫の喜びを味わっておられます。花の植え替えも利用者様と職員が協力して行っています。

職員は利用者様と良く話をします。会話の中や生活の中から気が付いた事に対して全職員で検討し対応しています。

職員は明るくいつでも笑顔で利用者様には接しています。ご家族の相談事にも随時対応しています。